

<特 集> 第43回環境保全・公害防止研究発表会

第43回環境保全・公害防止研究発表会の概要

山形県環境科学研究センター

平成 28 年 11 月 17 日（木）、18 日（金）の両日に環境省、全国環境研協議会及び山形県の共催による第 43 回環境保全・公害防止研究発表会が山形市の山形テルサで開催されました。

研究発表に関しては全国環境研協議会の会員から 50 題の演題応募があり、2 会場に分かれて、大気（16 題）、水質（15 題）、化学物質（10 題）、生物（4 題）、廃棄物（5 題）のセッションの研究発表が行われました。

1 日目は主催者の挨拶、続いて特別講演及び研究発表が行われ、2 日目は引き続き研究発表が行われました。2 日間で会員及び行政機関等から延べ 222 名の参加があり、盛況のうちに終了しました。



（山形県環境科学研究センター所長 奥山 卓郎）

各セッションの会場は自由に移動できますので、今後の研究や環境行政に是非活かしていただくために、是非とも幅広くお聴きいただきまして、大いに意見交換をしていただければと考えております。

また、山形県は、まさに実りの秋本番でありまして、最もおいしい季節を迎えております。皆様にはこの機会に、山形の魅力を可能なかぎり御堪能いただければ大変ありがたいと存じております。なお、本日の研究発表会の終了後には、恒例の情報交換会を予定しておりますので、一層の情報交換と親交を深めていただければ幸いです。

皆様にとりまして、この 2 日間がどうか有意義なものとなりますよう、御協力のほどお願い申し上げまして、歓迎の御挨拶とさせていただきます。2 日間どうぞよろしくお願いたします。

1. はじめに

山形県環境科学研究センター所長の奥山と申します。第43回環境保全・公害防止研究発表会の開会に当たりまして、一言歓迎の御挨拶を申し上げます。

皆様にはようこそ山形県にお越しいただきました。本日は、北海道から沖縄県まで全国各地域から、大変多くの御参加を賜りまして本当にありがとうございます。

今回は、国立環境研究所の肱岡先生の特別講演のほか、注目度の高いPM_{2.5}に関する研究をはじめ各機関が精力的に取り組まれてきた調査研究50テーマの発表を予定しております。日頃のお忙しい業務の中、本日の発表のために研究成果をまとめていただきましたことに心からの感謝と敬意を表する次第でございます。



A会場風景



B会場風景

第43回環境保全・公害防止研究発表会日程表

平成 28 年 11 月 17 日 (木)	山形テルサ A 会場 (3 階アプローチ)	
	○開会 (13:30~13:45)	
	開会のあいさつ	山形県環境科学研究センター所長 奥山 卓郎
	主催者あいさつ	環境省環境研究技術室長 太田志津子 全国環境研協議会会長 藤井 幸雄 山形県環境エネルギー部長 大森 康宏
	○特別講演 (13:50~15:00) 演題：地域における気候変動影響への適応のアプローチ 講師：肘岡 靖明 (国立研究開発法人国立環境研究所 社会環境システム研究センター 地域環境影響評価研究室長) 座長：藤井 幸雄 (全国環境研協議会会長) (奈良県景観・環境総合センター所長)	
○研究発表		
A 会場 (3 階アプローチ)		B 会場 (2 階リハーサル室)
○大気Ⅰ (15:10~16:18)		○水質Ⅰ (15:10~16:18)
○大気Ⅱ (16:28~17:19)		○水質Ⅱ (16:28~17:19)
平成 28 年 11 月 18 日 (金)	○研究発表	
	○大気Ⅲ (9:15~10:40)	○化学物質Ⅰ (9:15~10:40)
	○生物 (10:50~11:58)	○水質Ⅲ (10:50~11:58)
	昼食休憩	
	○廃棄物 (13:00~14:25)	○化学物質Ⅱ (13:00~14:25)
○大気Ⅳ (14:35~15:43)	○水質Ⅳ (14:35~15:43)	
○閉会 A 会場		
閉会のあいさつ	環境省環境研究技術室長 太田志津子	
次期開催県のあいさつ	長崎県環境保健研究センター所長 矢野 博巳	
開催県閉会のあいさつ	山形県環境科学研究センター所長 奥山 卓郎	

2. 主催者あいさつ

○環境省のあいさつ

ただいま御紹介にあずかりました環境省環境研究技術室長の太田でございます。



(環境省総合環境政策局環境研究技術室長 太田 志津子氏)

主催者の環境省を代表いたしまして、環境保全・公害防止研究発表会の開会に当たり、一言御挨拶申し上げます。

ます。

本日は、御多忙の中、全国各地から大勢の皆様方にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本研究発表会は、環境研究・技術開発の成果等の共有及び普及を図るため、環境省の前身でございます環境庁が発足して間もない昭和49年から毎年開催され、今年で43回目を迎えました。この長きにわたる歴史もひとえに、本日お集まりいただきました皆様や関係者の皆様方の長年の御尽力の賜物と考えております。重ねて御礼申し上げます。

本日は、先程奥山所長様から御紹介がございましたように、まず、特別講演といたしまして、統合評価モデルを用いて総合的な気候変動影響評価に取り組んでおられます国立環境研究所の肘岡室長より、「地域における気候変動影響への適応のアプローチ」と題しまして、「パリ協定」と地方環境研究所の取り組みの方向性について御講演いただきます。「パリ協定」につきましては、皆様も御存知のとおり、今月4日に異例の早さで発効し、

現在モロッコで開催されておりますCOP22でも「適応策」についての関心が高いと伺っているところでございます。今後、地方公共団体におきましては、気候変動の影響の評価や適応計画の策定をしていただくことになるかと思っておりますが、こうした最新の情報を共有できたらと考えております。

続きまして、A,Bの2会場におきまして、大気、水質から化学物質、廃棄物、生物にわたる幅広い分野における研究成果について、2日間に分けて御発表いただく予定でございます。今回の研究発表会では、これまで皆様方が長年取り組んでこられました研究から、災害環境研究などホットな事案に対応した研究など、様々な発表がいただけるものと承知しております。お互いに情報交換をさせていただきまして、それぞれに有益な知見が得られたらと考えております。

さて、環境省では、皆様方の研究を支援させていただくツールとして、いわゆる公募型の研究資金、「環境研究総合推進費」を運営しております。

特に近年は、国の厳しい財政状況に鑑み、研究の成果が厳しく問われるようになってきておりまして、環境省としましては、特に行政ニーズに合致した研究課題を優先的に採択しております。廃棄物、大気、水質、自然保護といった地環研の皆様方が日々取り組まれておられる研究課題は、行政ニーズに即応するものでございまして、推進費事業の中でも重みを増してきていると考えまして、平成29年度新規公募に当たりまして、地方自治体からの提案を募ってまいりました。今回は、15の道府県さんより昨年の約4倍の35件の御提案をいただき、この内9件を採択しまして、同様の提案をまとめて、行政ニーズとして新規公募を実施させていただきました。積極的な御提案をしていただきまして、誠にありがとうございます。

また、今年4月に法改正を行い、10月より新規課題の公募・審査・配分・契約といった推進費の業務の一部を独立行政法人環境再生保全機構に移管し、研究費の繰り越しや年度をまたがる物品等の調達を可能にするなど、研究者の皆様方にとって使いやすい制度にすべく取り組んでいるところでございます。引き続き、積極的な行政ニーズへの提案並びに新規研究課題への応募をよろしくお願いいたします。

環境省といたしましては、こうした下支えをさせていただきながら、地域における環境行政を支える科学的・技術的な中核組織でございます地方環境研究所を引き続き支援して参りたいと考えております。

最後になりますが、本研究発表会の開催に当たりまして、本日までの御丁寧な事前の開催準備を始め、このような立派な発表会場を準備していただくなど多大なる御

尽力を賜りました山形県、山形県環境科学研究センター及び全国環境研協議会の皆様方にお礼を申し上げたいと思います。また、先程、所長からも御案内ございましたけれども、本日の研究発表会終了後には情報交換会も準備していただいているということでございますので、皆様方におかれましては、研究発表会、情報交換会を通しまして、情報交換、意見交換そして親睦を深めていただければと考えております。

この2日間が皆様方にとって実り多きものとなることを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○全国環境研協議会のあいさつ

ただいま御紹介いただきました、今年度より、全国環境研協議会の会長を務めさせていただいております奈良県景観・環境総合センターの藤井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。第43回環境保全・公害防止研究発表会の開会に当たり、主催者として、一言御挨拶申し上げます。



(会長 奈良県景観・環境総合センター所長 藤井 幸雄氏)

本日は、全国から多数の方々に御参加いただき誠にありがとうございます。

また、本研究発表会の開催に当たり、環境省、国立環境研究所並びに今回本研究発表会の開催準備に御尽力いただきました山形県環境エネルギー部、山形県環境科学研究センターの皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、我々地方の環境研究所では、複雑化、多様化する現代の環境問題を解決するため、地方における環境施策への対応力や各地域の個別に発生する危機管理事象への対応力など、それぞれを充実させることが重要だと考えています。

しかし、厳しい地方財政状況のもと、個々の試験研究機関では対応が難しい調査研究を国立環境研究所さんと共同で実施や当研究発表会を始めとする各関係機関での情報交換・情報共有で対応しているところです。

今日明日の両日の研究発表会では、近年世間で注目されているPM_{2.5}関係での大気分野のテーマを始め、水質、生物、廃棄物、化学物質分野の合計50テーマでの研究発表がなされる予定をしております。各研究者の個々の専門分野だけではなく、異なる幅広い研究分野での研究取り組みについても関心を持っていただければよいのではないかと思います。

また、この後すぐ、国立環境研究所社会環境システム研究センター地域環境評価研究室長の肱岡先生による、「地域における気候変動影響へのアプローチ」と題する特別講演がありますが、先程太田室長さんから話がありましたパリ協定も先週日本も批准したところです。

今後、様々な地球環境等に与える地球温暖化に対して、我々を含めた地方自治体、事業者、個人がどのように対応していけばよいのか、非常にタイムリーなところのお話がいただけると思っています。

最後になりますが、本日の発表会が同じ目的・目標に、環境省・国立環境研究所・地方環境研究所の研究者が日頃の取組・成果を発表し、情報交換を行うことにより、さらに協力・共同を進め、皆様の研究がより発展することこの研究発表会が成功することを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○山形県のあいさつ

皆さんこんにちは、ようこそ山形においでいただきました。ただいま御紹介いただきました山形県環境エネルギー部長の大森でございます。第43回環境保全・公害防止研究発表会の開催に当たりまして、ホスト県として一言御挨拶を申し上げます。



(山形県環境エネルギー部長 大森 康宏氏)

本日は、環境省の太田室長様や、全国の環境研究機関の皆様など、各地から多数の方々にお越しをいただきました。誠にありがとうございます。

また、この後、国立環境研究所の肱岡先生には、特別

講演をお願いしておりますけれども、お忙しい中、快くお引き受けをいただきまして誠にありがとうございます。本県におきましても、今年度環境計画を見直しているところでございます、大いに参考にさせていただきたいと思っております。

さて、近年の環境問題を見ますと、資源やエネルギーの大量消費による地球温暖化の進行や、PM_{2.5}等の大陸からの越境環境汚染など、我が国だけでは解決が難しい、複雑・多様化した諸課題に直面をいたしております。しかし、そうした新たな諸課題についても、これまで公害の時代を乗り越えて各分野で培ってきた技術・知識を駆使して、様々な主体が幅広く連携をして取り組めば必ず解決できるものと確信をいたしております。そういった意味で、この発表会は、関係者が相互に情報交換、交流をしてお互いを高め合うという絶好の機会でありまして、是非、今日明日の2日間積極的に御参加をいただき、今後の連携強化に役立てていただければ幸いです。

また、折角の機会でございますので、この際山形県の状況を若干お話させていただきたいと思っております。本県は、数多くの秀麗な山々、日本百名山が六つございます。また、県内を米沢の南から北の庄内まで縦貫をいたしております最上川、また、全国一の面積を誇っておりますブナの天然林など、美しく大変豊かな自然環境に恵まれております。本県では、このような良好な環境と、暮らしや産業が共に高まり合う「環境先進地山形」の形成を推進いたしております。

また、5年前東日本大震災あるいは原発の事故に際しましては、いち早く避難をされて来られました被災者の方々の受入れをさせていただきました。また、災害廃棄物の処理のお手伝いも真っ先に手を挙げさせていただいたところがございます。その震災の翌年に策定をいたしました「第3次山形県環境計画」においては、エネルギー政策やライフスタイルを見直しまして、環境負荷の少ない持続可能な社会づくりを目指すこととしておりまして、これを踏まえて例えば都道府県レベルで全国初となります地域の新電力会社「やまがた新電力」を昨年設立いたしまして、地域資源を活用した、そして産み出された再生可能エネルギーの導入拡大を図ります等、各般の施策に取り組んでいるところでございます。

このような山形で開催をされます今回の発表会が、皆様の御協力の下で、実り多きものとなりますこと、また全国環境研協議会のますますの御発展と、本日お集まりの皆様方の研究の一層の進展を心よりお祈りを申し上げます。開催県としての挨拶とさせていただきます。2日間どうぞよろしく願いいたします。

3. 特別講演

国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム研究センター地域環境影響評価研究室長の肱岡靖明氏により、「地域における気候変動影響への適応のアプローチ」と題して、特別講演が行われました。概要は特集として後に掲載しております。

4. 研究発表

50の演題について、A・B会場の2会場で、2日間にわたり研究発表が行われました。以下にその概要を示します。

(1) 第1日目

(山形テルサ A会場)

○大気Ⅰ [15:10~16:18]

座長：熊谷 貴美代 (群馬県衛生環境研究所)

1A1-1 沖縄県におけるPM_{2.5}成分分析結果について
(2014年度)

比嘉 良作ほか (沖縄県衛生環境研究所)

1A1-2 島根県における微小粒子状物質 (PM_{2.5}) 濃度の
特徴について

浅野 浩史ほか (島根県保健環境科学研究所)

1A1-3 日本海沿いに配置したPM_{2.5}観測網で測定された
冬季の高濃度事例におけるSulfate/V比とAs/V
比の二次元プロット法による硫酸塩の発生源解
析

辻 昭博ほか (京都府保健環境研究所)

1A1-4 兵庫県の多地点におけるPM_{2.5}の発生源解析
中坪 良平ほか ((公財)ひょうご環境創造協会
兵庫県環境研究センター)

○大気Ⅱ [16:28~17:19]

座長：中坪 良平 ((公財)ひょうご環境創造協会兵
庫県環境研究センター)

1A2-1 PM_{2.5}成分におけるバイオマス燃焼由来レボグル
コサンのモニタリングと事例解析

浅野 勝佳ほか (奈良県景観・環境総合センタ
ー)

1A2-2 PM_{2.5}年間サンプリングによるPMF高濃度事例解析
山本 真緒ほか (奈良県景観・環境総合センタ
ー)

1A2-3 有機マーカーに着目したPM_{2.5}の発生源寄与評価
熊谷 貴美代ほか (群馬県衛生環境研究所)

(山形テルサ B会場)

○水質Ⅰ [15:10~16:18]

座長：菅谷 和寿 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター)

1B1-1 琵琶湖における市民協働による水辺空間修復へ
の取り組み

一瀬 諭ほか (滋賀県琵琶湖環境科学研究センタ
ー)

1B1-2 志渡沢川の河川汚濁機構解明調査

赤羽 則臣ほか (栃木県保健環境センター)

1B1-3 山形県内における地下水窒素汚染対策の事例に
ついて

沼澤 聡明ほか (山形県環境科学研究センター)

1B1-4 千葉県における環境放射能調査 (2)

井上 智博ほか (千葉県環境研究センター)

○水質Ⅱ [16:28~17:19]

座長：田中 仁志 (埼玉県環境科学国際センター)

1B2-1 生物応答手法を用いた試験法導入の検討につ
いて

板倉 直哉ほか (さいたま市健康科学研究セン
ター)

1B2-2 生物応答を用いた名古屋市内河川の実態調査

長谷川 絵理ほか (名古屋市環境科学調査セン
ター)

1B2-3 トリクロロエチレンによる広域的地下水汚染の
改善事例

平塚 達也 (山形県環境科学研究所)

(2) 第2日目

(山形テルサ A会場)

○大気Ⅲ [9:15~10:40]

座長：浅野 勝佳 (奈良県景観・環境総合センター)

2A1-1 広島市における大気中揮発性有機化合物 (VOCs)
の状況

加藤 寛子ほか (広島市衛生研究所)

2A1-2 オゾンスクラバーとしてBPEを用いた環境大気
中アルデヒド類サンプリングについての検討

岡本 誓志ほか (千葉市環境保健研究所)

2A1-3 兵庫県における大気中PAHsの季節変動とリスク
評価

吉識 亮介ほか ((公財)ひょうご環境創造協会
兵庫県環境研究センター)

2A1-4 使用過程車走行時に排出される炭化水素類・ア
ルデヒド類の調査

秦 寛夫ほか ((公財)東京都環境公社東京都環
境科学研究所)

2A1-5 熊本震災における環境保全支援活動と今後の課
題

川寄 幹生ほか (埼玉県環境科学国際センター)

○生物 [10:50~11:58]

座長：後藤 伸幸 (山形県環境科学研究センター)

- 2A2-1 京都府における外来種ミシシippアカミミガメの定着と個体数の劇的な増加について
多田 哲子ほか (京都府保健環境研究所)
- 2A2-2 榎野川河口干潟における順応的取組について
惠本 佑 (山口県環境保健センター)
- 2A2-3 森林生態系における生物・環境モニタリング手法の確立
高橋 善幸ほか (国立研究開発法人国立環境研究所)
- 2A2-4 オープンソースWebGIS技術を用いた情報提供システムの作成
植田 信夫ほか (新潟県保健環境科学研究センター)

○廃棄物 [13:00~14:25]

座長：佐藤 勉 (山形県環境科学研究センター)

- 2A3-1 橋梁塗膜中PCB及び鉛等有害物質の実態調査
大塚 英幸ほか (北海道立総合研究機構環境科学研究センター)
- 2A3-2 建設混合廃棄物の拠点化施設設置によるリサイクル向上率の推定
丹羽 忍ほか (北海道立総合研究機構環境科学研究センター)
- 2A3-3 安定型最終処分場の浸透水における有機物指標の変動と微生物の関係
平川 周作ほか (福岡県保健環境研究所)
- 2A3-4 産業廃棄物焼却残渣の元素組成調査
渡辺 洋一ほか (埼玉県環境科学国際センター)
- 2A3-5 管理型最終処分場の廃止に向けたモニタリングの検討
長森 正尚ほか (埼玉県環境科学国際センター)

○大気IV [14:35~15:43]

座長：川崎 幹生 (埼玉県環境科学国際センター)

- 2A4-1 川崎市における降下ばいじんの60年間の調査結果
山田 大介ほか (川崎市環境総合研究所)
- 2A4-2 長野県における酸性雨の長期観測 (1989-2014年度)
小林 利典ほか (長野県環境保全研究所)
- 2A4-3 千葉県における降水成分濃度の近年の状況
横山 新紀 (千葉県環境研究センター)
- 2A4-4 埼玉県、富山県及び韓国済州島で採取した大気中の細菌群集構造の特徴
田中 仁志ほか (埼玉県環境科学国際センター)

(山形テルサ B会場)

○化学物質 I [9:15~10:40]

座長：荒堀 康史 (奈良県景観・環境総合センター)

- 2B1-1 LC/MS/MSを用いたゴルフ場農薬多成分同時分析法の開発
藤沢 弘幸ほか (富山県環境科学センター)
- 2B1-2 公共用水域のLAS分析における固相抽出溶媒について
吉田 恭司ほか (愛知県環境調査センター)
- 2B1-3 LAS環境基準超過河川における排出源解析
梅澤 真一ほか (群馬県衛生環境研究所)
- 2B1-4 カエル後期発生における奇形と変態遅延に関するトリアジン系除草剤の比較毒性学的研究
坂 雅宏ほか (京都府保健環境研究所)
- 2B1-5 国立環境研究所II型共同研究「国内における化審法関連物質の排出源及び動態の解明」の活動成果報告
西野 貴裕ほか ((公財)東京都環境公社東京都環境科学研究センター)

○水質III [10:50~11:58]

座長：一瀬 諭 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

- 2B2-1 琵琶湖沿岸域における底泥の評価について
古田 世子ほか (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- 2B2-2 裏磐梯五色沼湖沼群の湖水の化学的な成分に関する調査結果
渡邊 勇樹 (福島県環境創造センター)
- 2B2-3 猪苗代湖における水生植物の分布状況の把握と北部水域の水質特性
大沼 沙織ほか (福島県環境創造センター)
- 2B2-4 茨城県における事案の分析例
菅谷 和寿 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター)

○化学物質 II [13:00~14:25]

座長：西野 貴裕 ((公財)東京都環境公社東京都環境科学研究センター)

- 2B3-1 奈良県内河川底質のHBCD濃度調査について
荒堀 康史ほか (奈良県景観・環境総合センター)
- 2B3-2 福岡市内公共用水域におけるノニルフェノール測定結果
高村 範亮ほか (福岡市保健環境研究所)
- 2B3-3 土壌中有機汚染物質および重金属類の同時スクリーニング法の開発
宮脇 崇 (福岡県保健環境研究所)

2B3-4 ダイオキシン類分析で用いる精度管理試料の検討

岩切 良次（環境省 環境調査研修所）

2B3-5 宮城県における公共用水域中のダイオキシン類検出状況について

石川 文子ほか（宮城県保健環境センター）

○水質IV〔14:35～15:43〕

座長：安部 悦子（山形県環境科学研究センター）

2B4-1 武庫川上流域における窒素、りん及びCODの濃度変動

松林 雅之ほか（（公財）ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター）

2B4-2 新潟県内河川におけるマンガン調査

大野 峻史ほか（新潟県保健環境科学研究センター）

2B4-3 河川敷における放射性物質の分布状況と除染による効果

鈴木 聡ほか（福島県環境創造センター）

2B4-4 生物応答を用いた排水管理手法による水環境調査のケーススタディ

鏑迫 典久ほか（国立研究開発法人国立環境研究所）

5. 閉 会

閉会に当たり、環境省及び山形県から閉会の挨拶が、また、長崎県から次期開催県としての挨拶がありました。

○環境省の閉会のあいさつ

第43回環境保全・公害防止研究発表会の閉会に当たって、一言御挨拶申し上げます。2日間にわたる研究発表会、皆様大変お疲れ様でした。この2日間を通して、数多くの調査、研究成果の発表と、活発な御議論が行われた事と思います。これもひとえに、発表者の皆様方の御努力、それから各セッションの座長の皆様の的確な運営、更には、御参加いただいている研究者の皆様方の御協力の賜物と考えております。改めまして敬意を表したいと思います。

環境省といたしましても、財政的にも人間的にも厳しい中であって、御苦勞をされつつも工夫して研究を進めておられる皆様方に対し、引き続き推進費などのツールを使いまして、御支援をさせていただくと共に、皆様方の御意見も踏まえまして、更なる支援方策についても模索して参りたいと考えております。

また、今回のホスト県でございます、山形県、山形県環境科学研究センターの皆様方におかれましては、準備作業や当日の運営に御苦勞もあつたかとは思いますが、円滑かつ的確な運営と、あたたかいおもてなしをしてい

ただきましたことに対し、心より感謝申し上げます。

本研究発表会は、年に一回、全国の地方環境研究所の研究者の皆様方が一堂に会し、調査研究成果を共有すると共に、情報交換を行う貴重な機会でございますので、今後とも継続すると共に、一層充実させて参りたいと考えております。

次回の開催県でございます長崎県さん、及び全国環境研協議会の関係者の皆様方におかれましては、来年の開催に向けて引き続きのお力添えをしていただきますよう、よろしく御願申し上げます。

以上をもちまして、私からの閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○次期開催県のあいさつ

こんにちは、長崎県の矢野でございます。

2日間の研究発表会お疲れ様でした。来年は長崎県という事でございます。沖縄県さんほど遠くございませんが、西のはずれの県でございます。遠うございまして、十分お気を付けていらっしゃっていただきたいと思ひます。



（長崎県環境保健研究センター所長 矢野 博巳氏）

長崎県は、北海道に続きまして全国で二番目の水産県でございます。美味しいお魚が待っております。あと、ちゃんぽん、皿うどん、カステラも待っておりますので、是非ですね、長崎を楽しみに、また一年間研究を積み重ねていただいて、是非多くの方に来ていただきますようお願いいたします。長崎県からの御挨拶に代えさせていただきます。どうもお疲れ様でした。

○開催県閉会のあいさつ

皆様、2日間にわたり、大変熱心な御討議、誠に御疲れ様でした。皆様の御協力をおもひまして、盛会のうちに発表会の全日程を終了することができました。

環境省の太田室長様、全環研の藤井会長様、そして特別講演の脇岡先生には、大変お忙しい中御出席を賜りまして、貴重な御提言・御助言をいただきましたことに心

から感謝を申し上げます。

また、各セッションの座長と発表を務めていただいた皆様、聴講者の皆様には、円滑な進行に御協力いただくとともに、最後まで熱心に御討議いただきまして、中身の濃い発表会にさせていただきました。本当にありがとうございました。

今回発表いただきました研究成果や情報交換で得られ

た知見、そして交流を通して築かれたそれぞれのネットワークを、今後の皆様の研究や環境行政の推進に是非役立てていただければ開催県として幸いに存じます。

最後に、次回開催の長崎県の発表会がさらに盛況に開催されますことを御祈念申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。